

第2学年2組技術・家庭科（家庭分野）学習指導案
（学習指導案）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深田, 貴代 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010398

第2学年2組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 深田 貴代

1 学習のくくり「衣生活を自分の手で」（26時間）

2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

家庭分野3年間でめざす姿

- 生活の自立に必要な基礎的知識とそれらに係る技能の原理や価値に気づき理解できる生徒
- 生活の自立に必要な基礎的知識とそれらに係る技能を生かし、様々な視点から自分の生活と社会とのつながりを考え、自分の生活を見直し改善したり、人々と協働し、生活をよりよくしていこうとしたりする生徒

家庭分野3年間の共通テーマ

よりよい家庭生活、そして社会をつくっていく生活者としての自分のあり方とは

◆学習のくくり ◇共通テーマ
学習内容



3 学習のくくり「衣生活を自分の手で」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		育成する資質・能力の要素と階層レベル						
		知識		スキル			情意	
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身本	E 社会	F 興・関	G 自究
ガイダンス (1)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○衣服と社会生活とのかかわりや技術の発達によって、現在の衣生活が営まれていることに気づき、自分の衣生活を振り返るとともに、共通テーマや共通課題を理解する。	3						
		2	2	2	3	2		
エンカルコンシューマールとしてのかむ学習(21)	○衣服の社会生活上の機能がわかり、TPOに応じた衣服の着用や、色、柄、デザインなどで個性を生かす着用について考える。(1)	1 2	1 2	1 2		2	1 2	
	○衣服の計画的な活用の必要性を理解し、衣服の適切な選択と衣服の材料に応じた日常着の手入れの仕方をまとめる。(2)	1 2	1 2	1 2	2	2	1 2	
	○「アロハシャツのルーツを探れ」のミニ追究を行い、交流活動を通して、アロハシャツの伝統やTPO等をふまえた個性を生かす着用、製作するのに適した材料や縫い方について考え、製作に必要な材料の選び方をまとめる。(2)	3				3	3	
	○平面構成である和服(浴衣)の着付けを通して、日本の伝統的な衣服である和服の特徴について再認識する。(1)	3	3			3	3	
	○立体構成(洋装)の特徴を理解し、衣服製作における各工程の重要性について説明をする。(1)	2	2	2		2	2	
	○アロハシャツを製作していくための準備の活動を通して、製作工程の確認をする。 <型紙の配置、裁断、しるしつけ、接着芯準備> (本時3/4)	1 2	1 2	1 2	2	2	1 2	
	○アロハシャツを仕立てるために必要な用具や機器の安全な取扱い方法をふまえ、資源や環境にも配慮した製作を行う。 <ポケットつけ、ヨークつけ、衿づくり、衿つけ、袖つけ、脇縫い、裾縫い、ボタンホール、ボタンつけ> (10)	1 2	1 2		3	3	3	
3								
追究する学習(3)	《追究課題の設定》 ○共通課題を受けた追究課題の設定(1) つかむ学習をもとに追究課題を明確にし、自分でつくったアロハシャツを着てハワイに行った価値について追究方法を考える。	3	3			3	3	
	《追究活動》《交流活動》 ○製作したアロハシャツを目的に応じた着方や個性を生かす着方を考え、ハワイで実際に着て、様々な活動することで、衣服と社会生活とのかかわりについて見直したり、他国の文化を取り入れ、人々との関わりを深め、思いや考えを伝え合ったりしながら追究課題に取り組む。(2)	3	3	3	3	4	4	
つなげる学習(1)	《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》 ○これまでの学習を振り返り、共通テーマに対する自己の最適解をまとめたり、仲間との交流を通して考えを深めたりする。							
	【期待する生徒の表れ】 ・衣服の材料の性質やその手入れの仕方を理解し、状況に応じて生活の中で活用、実践していくことを記述している。 ・衣服と社会生活とのかかわりを理解し、自分でつくったアロハシャツをハワイで着用することを通して、目的やその国の文化に応じたり、個性を生かしたりする着用の仕方について記述している。 ・ものづくりにおける工夫やその社会的・文化的な価値について理解し、消費者市民社会をめざす生活者として、個々の消費が及ぼす社会とのかかわりとその影響を考えた上での自分のあり方について記述している。	4	4		2	4	4	

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手立て

本学習のくくりでは、「①生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得すること、②ものづくりの計画・製作・活動・評価という工程を体験することで、全体を見通す力を身につけるとともに、その社会的・文化的な価値について理解をすること、③ものに投じられた労働に気づき、ものや環境を大切にしようとする共生の態度を養うこと」について、アロハシャツを製作し、活用するまでの一連の体験をすることで実感をともなった学びとしていく。物資やサービスの質がよくなった今、公平かつ持続可能な社会の形成に貢献するような消費行動をとる消費者市民を育むことが求められる。

そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

- ・衣服の材料の性質やその手入れの仕方を理解し、生活の中で活用、実践ができる生徒
- ・衣服と社会生活とのかかわりを理解し、自分でつくったアロハシャツをハワイで着用することを通して、目的に応じた着用や個性を生かす着用の重要性を感じ、実践ができる生徒
- ・ものづくりに必要な技術に隠された先人の工夫やその社会的・文化的な価値について理解し、消費者市民として商品の選択ができる生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組ませる。

まず、ガイダンスでは、衣服と社会生活とのかかわりや技術の発達によって、現在の衣生活が営まれていることに気づかせるとともに、1年生での学習のくくり「今、そして未来へのテキスタイルデザイン」で既習の「エシカルコンシューマー」（エシカル：倫理的、道徳的・コンシューマー：消費者）としての自分の衣生活を振り返らせる。また、学習計画表を示し、今後の学習活動について確認させるとともに、共通テーマや共通課題を提示することで、本学習のくくりにおける最適解についておぼろげながらもイメージさせる。そうすることで、日々の生活の中で知り得る多くの情報から、様々なことを正しく読み取り、自分が必要とする商品を選択したり、学んだことを活用したりして、実生活で実践しようとする気持ちを育みたい。そして、その積み重ねが消費者市民としての姿につながると考える。

そこで本学習のくくりでは、本校の総合的な学習の時間のハワイ体験学習における活動で、「自分の作ったアロハシャツをハワイで着る」場面を設定した。まず始めに、「アロハシャツのルーツを探れ」というミニ追究の活動を行う。それによって、日本の伝統的な衣服である和服の特徴について再認識したり、和服とハワイの伝統であるアロハシャツとのつながりを知ったりすることとなる。また、製作における目的に合わせた布地選択の視点を確認するためにも重要な活動である。その後、班で作業工程を確認し合いながら、計画的に製作活動を進めていく。追究する学習では、その製作したアロハシャツのTPOに応じた着方や個性を生かす着方を考え、ハワイ体験学習で着用する。その際、その国が大切にしている伝統着を実際に着て、ひと、もの、ことと出会い、活動していくことで、衣服と社会生活とのかかわりについて見直し、自分の見方や考え方が認められたり、他者の考えた視点から自分では気づけなかった新たな見方や考え方が引き出されたりする機会としたい。このような一連のアロハシャツ製作における活動を通して、主体的・対話的な学びにつなげていく。

また、学習計画表の学習内容のまとめりと共に共通テーマに対する気づきのメモを記入させ、自分なりの消費者市民社会をめざした生活者としてのあり方を考えていく。そして、つなげる学習では、様々な視点から、自分の生活の中で改善していくことと、自分と社会とのつながりを考え、社会全体で取り組まなければならないことに分けて認識し、共通テーマに対して振り返ることで、自分なりの最適解を見いださせ、更に仲間との振り返りの記述の交流を通して考えを深めていく。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	消費者市民社会をめざした生活者としての自分のあり方とは (レベル ⁴)
共通課題	自分で作ったアロハシャツを着て Hawaii に行った価値について様々な視点から考えよう。

4 本時について（本時 1 1 / 2 6）

（1）本時の目標

【生活を工夫し，創造する能力】	アロハシャツを縫製していくための製作工程について，手順を比較し検討することで，効率のよい製作計画を立てることができる。 (A 2)・(B 2)×(C 2)・(E 2)
-----------------	--

（2）学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
<p>●平面構成，立体構成の学びを振り返り，これから製作していくアロハシャツの衣服構成について再確認する。</p> <p>●本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・既習内容である平面構成，立体構成の学びを振り返るとともに，1枚の衣服として完成されているアロハシャツの構成を確認させる。</p>
<p>アロハシャツを縫製していくために，製作工程を確認し，よりよい製作計画を立てよう。</p>	
<p>●A<裁断し，しるしづけがされた状態の9枚（7種類）のパーツである布地>と，B<完成している1枚のアロハシャツ>を見比べる。</p> <p>●班で，Bを参考に，Aをどのように合わせていけば，1枚の完成したアロハシャツができるかまち針とクリップでとめ合わせる。</p> <p>●どのような手順で進めると，効率よく製作ができるかを班で考え，製作計画を組み立てる。</p>	<p>・立体構成である洋服のアロハシャツが，どのように縫製し，仕立てられているかを意識し，A<裁断し，しるしづけがされた状態の9枚（7種類）の布地>と，B<完成している1枚のアロハシャツ>を見比べさせる。</p> <p>・実際に布を合わせる際，縫い代や合い印が重要であることを気づかせる。</p> <p>・製作における各工程の重要な点をふまえ，これからの工程に対して見通しをもたせる。</p> <p>○各パーツの合わせ方を見いだせない班には，洋服の展開図を用いて可視化し，確認しやすくする。</p>
<p>※製作手順をホワイトボード上で確認し，班で効率のよい製作計画を考えている。</p> <p>※製作における各工程の重要な点について実物を使って再確認した上で，手順を修正している。</p> <p>※製作に見通しをもち，計画的に進めていくために，各工程のつながりをワークシートにまとめている。</p>	<p>・班員でホワイトボード上でAの紙状縮小版パーツを活用し，作業手順について確認しながら，製作計画を組み立てさせる。</p> <p>・限られた授業時数，そして各授業時間内で，準備から製作，片付けまでを行い，製作を進めていくためには，どのような工夫が必要か考えさせる。</p> <p>○計画を考える上で，作業手順が前後し，製作に時間がかかってしまうことに気がついていない班には，実物を見せ，可視化させて説明することで再確認させ，修正をうながす。</p> <p>・製作を終えた先輩からのメッセージカードを使い，実際に中学生が考えた製作におけるポイント伝えることで，製作上のポイントを再確認させる。</p>
<p>●本時の学習を振り返り，共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。</p>	<p>・本学習のくくりにおける共通テーマに対してどのような気づきを得たのかを，これまでの気づきのメモを振り返りながら記入させる。</p> <p>◇本時の目標について，※印のような生徒の表れが見られたか。</p>